

## 連携先世界遺産：音羽山清水寺

### 清水寺の△△の〇〇(良い点)を磨け!、もしくは□□(困っている点)を救え!

境内の魅力を再発見しそれを伸ばす、あるいは問題点を発見しその問題解決を図る、いずれにしても独自の視点で新しい課題を見つけ解決する

#### ■受講生

太田 直宗 (立命館大学・理工学部・1年生)、川村 仁似花 (同志社大学・グローバル地域文化学部・1年生)、  
武田 慎太郎 (同志社大学・理工学部・2年生)、田代 渉 (立命館大学・文学部・4年生)、  
中川 友風弥 (立命館大学・理工学部・3年生)、林 優斗 (立命館大学・理工学部・3年生)

#### ■担当教員

宗本 晋作 (立命館大学・理工学部・教授)、青柳 憲昌 (立命館大学・理工学部・教授)、  
遠藤 直久 (立命館大学・理工学部・講師) TA 岡田 紗季 (同志社大学 4年生)

#### 活動目的・概要

清水寺でもまだ気づいていない、時代を超え後世まで維持していくべき良い点は何か?逆にまだ気づいていない困っている点は何か?フィールドワークを行って、建築学の視点から対象の課題を発見、提案作成、発表、検証を繰り返し、創造性豊かに解決する提案を目指しました。

授業は清水寺にて対面方式で行い、第2回授業では森清頭先生に境内を案内していただき、清水寺に対しての理解を深めました。6人の受講生を大学、専門分野が偏らないよう2つのグループに分け、個人でなくグループでの作業を基本としています。毎回の授業準備では、グループ内で意見交換しながら「他の人に伝える材料」を用意しました。授業では、担当教員、時には森清頭先生を交えて、意見を交換しながら再検討しました。これらの過程を繰り返し、最終的な提案へ纏めていきます。

授業の目的は、解のない課題と向き合い解決する能力を養うこと、他大学の学生や専門分野が異なる学生同士が積極的な交流を図ることです。結果、グループでの活動や活発な議論を経験した歴代の受講生が清水寺のファンとして定着しています。



#### ◆主な活動

2023. 5. 28(日) オリエンテーション  
2023. 6. 4(日) 概要説明、清水寺境内見学  
2023. 6. 4(日) 自己PR、グループ分け  
2023. 6. 18(日) (講義)清水寺の建築学的視点と歴史  
2023. 7. 9(日) 方針発表、フィールドワーク  
2023. 8. 20(日) 草案批評1

2023. 9. 4(月) 草案批評2  
2023. 9. 5(火) 草案批評3  
2023. 10. 1(日) 草案批評4  
2023. 10. 22(日) 中間発表、講評  
2023. 11. 5(日) 草案批評5  
2023. 11. 26(日) 成果発表会準備、発表練習  
2023. 12. 10(日) 成果発表会

## 活動の成果

### 言葉の参詣曼茶羅

清水寺を訪れる毎に新たな知る清水寺の魅力に心打たれ、素晴らしい景色や面白い歴史を参拝客に伝えた。様々な様子を考えた私達は、清水寺の様子を多面的な視点から伝え、参拝者にも清水寺の多様な世界を体験してもらおう事を目的に制作を始めました。そこで、過去に清水寺の僧侶が地方に赴いた法話を解説していった際、使用していた「清水参詣曼茶羅」から着想を得て、新たに「言葉」で構成された「言葉の参詣曼茶羅」を提案します。人々の多様な言葉を集める事で読み手は自身の考えとは違った清水寺の良さを発見し、感じる事が出来ません。次第に自身の感じる清水寺の魅力を見出し、自身が語り手になり、人々から集積される言葉により積層された清水寺の魅力が人々に伝承され続けます。

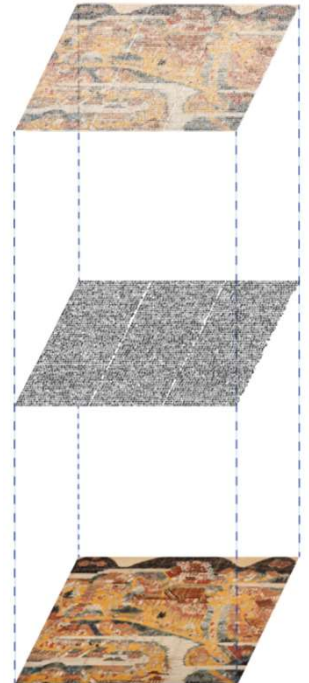


随求堂、改めて自身の命の大切さを思う私にとって腑に落ちる空間です。灯りのない洞窟を通り抜けて現世に生まれ落ちる瞬間を追体験出来ます。

雲の間から日が差し込んで京都市内を照らしていた。仁王門がまるでフレームのようであった。

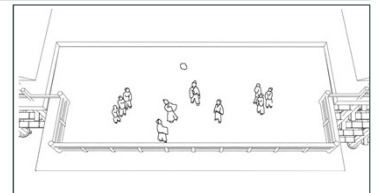
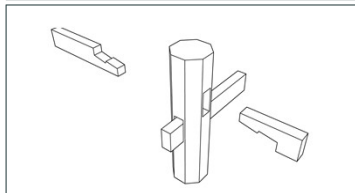
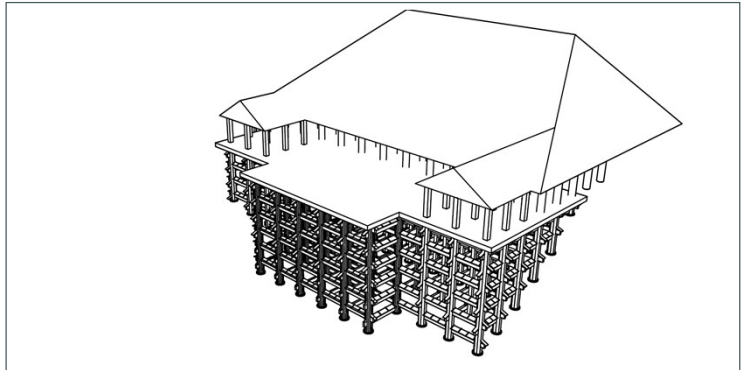
仁王門前の狛犬、口を大きく開けているのは私の教えを大声で世に知らしめる説だとか。

拝観時間ギリギリだったから小走りで汗だくになったけど行ってよかった。



### 舞台の軌跡をトレースする

清水寺の魅力を探しているとき、大階段から見る舞台の美しさに魅了されました。その感覚は直感的なものでしたが、目には見えない何かが舞台には内在しているように思え、活動の主題にすることを決めました。舞台に内在するものを知るために、舞台のこれまで歩んできた歴史や構法などを調査しました。調査の結果舞台には、数百年とカタチを変えていない「変わらぬ美」、芸能を奉納する場だけでなく時代とともに多様な出来事が起こった場である「変わる用」、貫や楔、雨除けなど大工技術を用いることで、木材のみを用いても何百年も舞台を支える「変えぬ強」という三つの要素が内在していることが分かりました。舞台のこれまでたどってきた軌跡をたどることで、内在するものを見つけ、動画作品としてトレースする作品を通して、他者の記憶にも舞台の軌跡が投影できると考えました。





## 活動を振り返って

- ・グループで意思の疎通を図るのが大変でした。
- ・正解の無い課題に対して自身の考えを理論的にそして魅力的に伝える為に試行錯誤する事は苦戦するが、成果物として形にできた時に達成感があり楽しかったです。清水寺の課題で歴史や現状などから課題を設定する事、設定した課題に対しての解決策を説得力があるように提案する事をエスキスを通して深く学びました。

そのようなプロセスは今後必ず物事を考える時に必要になるのでここでの経験は大変有意義なものになったと感じました。

・初めは課題を発見することにおいて解決策が簡単に見つかるような課題しか考えられませんでした。教授の助言とともに清水寺の良さや清水寺に提案できることを挙げなければいけないと考え直し、グループで何を伝えたいのかを考えました。ただし、何を提案するのかについてアイデアを出している内に目的からそれてしまったり、目的を見失ったりすることが多く、なかなか活動が順調に進まず日々頭を抱えてました。それでも毎回の授業で行き詰まったままのグループでのアイデアに対して先生方と共に何を目的として大事にするのかを整理し、思考のヒントを教えていただくことで思考し続けられました。本講義で強く印象に残っていることは手法や目的を考える際にストーリー性が重要であり、課題への解決策を提案するために何を目的にするのかを考えることです。課題について思考するうちのほとんどをこのストーリー性について時間を割き、なお上手くいかないことが続いたので夢にも「それが清水をどうよくするのか？」が出てくるくらいでした。約半年間の講義では清水寺を中心にこのような思考を繰り返しましたが、何においても内在する意味合いや価値、ストーリーについて着目することでこの講義の目標である課題を発見して解決策を提案するためのアイデアに繋がるのだと思いました。また、何度も宗本先生や遠藤先生らに別視点からアイデアを指摘される経験をして、それを恐れて、アイデアを考える際に「このままではこういうように指摘されそうやな」というように自分のアイデアを客観視できるようになったのは大きな成果です。

・懸造に魅力され、その魅力はなんなのか、懸造の良さとはなんなのかを考え続けた半年でした。考えつくものは試しに作ってみる。確認して壊す。また作る。直感的な制作ばかりだったので、制作物も目標も二転三転しました。このプロセスは楽しくもあり、何も積み上がっていないような不安感が膨らんでいきました。しかし、制作目標が右往左往する中で、目では見えない部分の魅力、知らなかった歴史など知識が増えていき、より懸造に魅力されていきました。苦しいことも多かったですが、この授業に参加できて本当に良かったと思っています。

・他の授業では設問に対してある程度決まった解があるのに対し、この授業では与えられていません。ただ単に、問題点から解決策だけを導くだけでは方法に溺れ、シナリオに乗せることができず苦勞しました。

しかし、後半からは軌道に乗り最終的には半年間で積み重ねたバラバラと思われた材料が各々生きたような発表が完成しました。専門分野の異なるメンバーと議論し、エスキスを重ねることで自分にはない考えが沢山出てくる面白さは他の授業では味わえないものだと思います。

## 担当教員からのコメント

宗本晋作 青柳憲昌 遠藤直久

課題の解決法と問題設定の組合せを学生自身で発見しなければならないため、最初の部分で手こずる学生は多い。しかしながら、苦戦しながらも見出した活路は、魅力ある新しい構想、それを人に伝えようとする高い創作意欲に繋がり、何より長い目で見たときに、能動的に得た学生自身の表現や纏める能力は必ず有用となる信じ、毎回、徹底した姿勢で指導している。

今年もまた、学生たちが苦勞していたように思うが、その分、学びは大きいはずである。授業時間後や時間外の長時間にわたる積極的な実地調査や議論、作業により、期待以上の成果品ができた。学生諸君の粘り強さ、高い向上心には、賞賛とエールを送りたい。

学生たちの新鮮なアイデアを共にブラッシュアップしていく過程で、私たち自身も共に考えさせられ、共に学んだと痛感している。このように今年で8回目となった今回もまた、教員にとっても大変実り多い経験となった。この背景には、森清顕先生をはじめとする清水寺の大きなサポートがあったことを特筆させて頂いた上で、今一度、同寺関係者の皆様には深く感謝を申し上げますとともに、毎年、元受講生の一人がTAとして活躍してくれるが、今年ご協力いただいた岡田紗季さんにも感謝を申し上げたい。

## 活動資料

(左) 森清頭先生に清水寺境内を案内してもらった時の様子。森先生の講和の直後だったので、清水寺の歴史と現存する建物を対応させながら理解学生は森先生に質問したり建物の細部を改めて見たりしました。(右) 本堂の舞台を支える構造である懸造の模型を見ている様子。



清水寺での授業の様子。毎回、先生方と相談会（建築の言葉でエスキス）を行いました。先生から厳しい意見が出ることもありましたが、独自の提案にするために、議論を深めました。



グループで考えた解決策を試作することで、方向性を決めていきました。(左) PCで清水寺本堂の懸造の構造を再現しました。(中) 柱と梁の構造を自作しました。(右) 紙媒体でもネット上でも両方の表現を試しました。

